

個別支援地域ケア会議・地域課題ケア会議の分析（平成29～30年度）

1. 地域ケア会議について

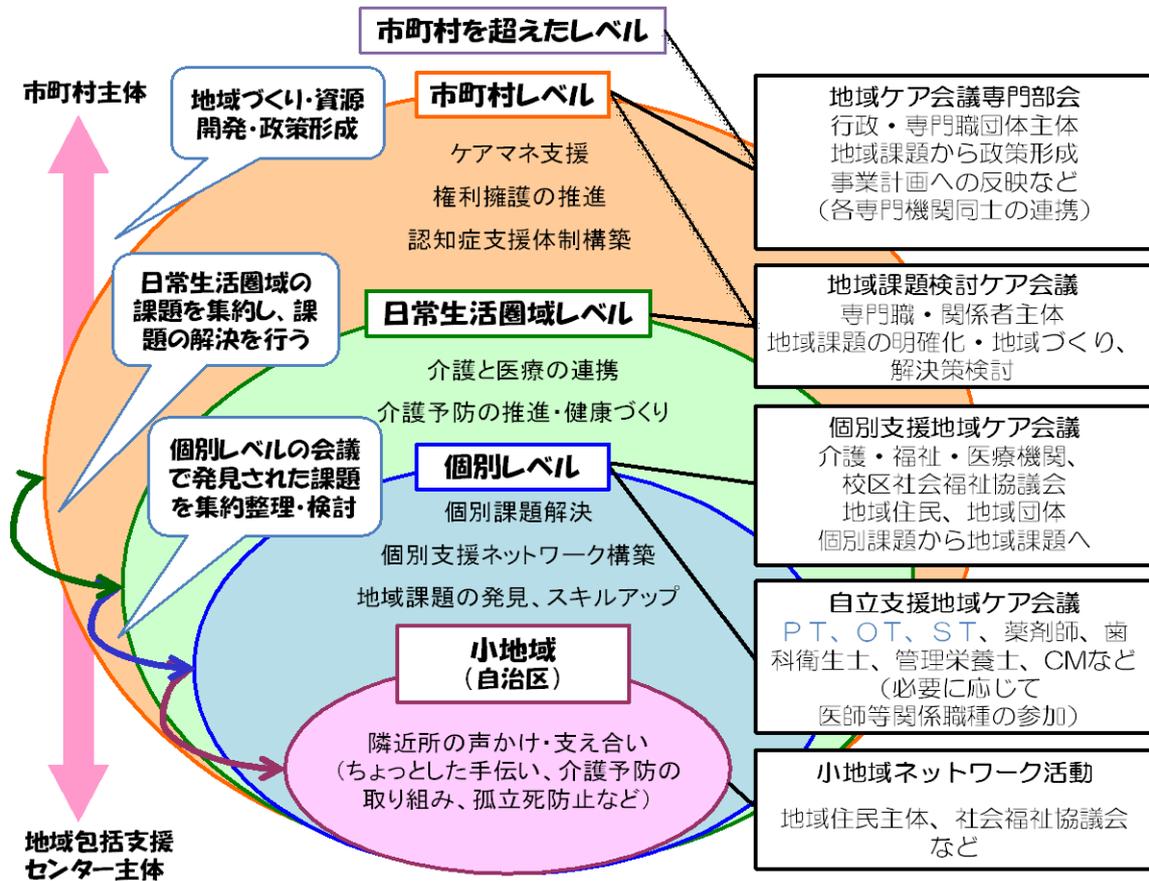
(1) 会議体の位置付け

地域課題の解決に必要な資源開発や地域づくりの検討、地域に必要な取り組みを久留米市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画へ反映するなどの政策形成につなぐための会議。

(2) テーマとする地域課題

地域課題検討ケア会議において検討された地域課題の中から、地域に不足している資源やサービスなどを開発するために、全市的レベルでの政策形成が必要と判断されるもの。

2 地域ケア会議のイメージ



参考：厚生労働省通知による「全市的地域ケア会議」の機能、主催者、構成員等

出典：H25年3月29日老健局振興課長通知「地域包括支援センターの設置運営について」

H25年2月14日老健局振興課通知「地域ケア会議に関するQ&A」

(1) インフォーマルサービスや地域の見守りネットワークなど、地域で必要な資源を開発する「地域づくり・資源開発機能」

(例) 公的サービスだけでは支えきれない課題（ゴミ出し、見守り）がある場合、住民組織やボランティアとの協働などについて検討

(例) 特定の機関（医療機関、施設等）との連携が進まない場合、関係者で好事例を共有し、改善方法を検討

(例) 特定の介護支援専門員やサービス事業者の課題（自立支援の理解不足、サービス過剰、サービス過小等）の解決のため、職能団体や事業者団体のネットワーク化による解決方法を検討

(2) 地域に必要な取り組みを明らかにし、政策を立案・提言していく「政策形成機能」

(例) 圏域内で解決困難な課題（買い物弱者の移動手段、孤立化防止に関する企業との連携等）について、市町村での事業化・施策化の必要性について提言

(例) 地域ケア会議で見出した地域で実践されている有効な解決策を、地域全体に普及することについて提言

3. 個別支援地域ケア会議・地域課題ケア会議の分析

(1) 平成29年度及び30年度の個別支援地域ケア会議（当該年度に開始した事例）における課題について

① 年度別

年度	協議体数
29	41
30	30

② 圏域別

圏域	協議体数
中央	11
東	14
西	16
南	19
北	10
全圏域	1
合計	71

③ 個別支援地域ケア会議 課題別割合（平均10%以上）と具体的な課題（重複省略）別紙1のとおり

④個別支援地域ケア会議からみた課題の特徴

- 主原因としては高齢当事者の認知症等。
- 家族が課題を抱え高齢者の支援が出来ていない、家族の疲弊等のケース。
- 社会的孤立や異臭・徘徊・コミュニケーション等で近隣・事業所とのトラブルになっているケース。
- 生活困窮、金銭管理の課題。
- 当事者である高齢者が制度に繋がらないケース（支援拒否等も含む）。

（２）地域課題検討ケア会議件数・状況の説明（H29・30年度中に開始した協議体数）

① 年度別

年度	協議体数
29	20
30	11

② 圏域別

圏域	協議体数
中央	6
東	3
西	14
南	6
北	1
全圏域	1
総計	31

（３）地域課題検討ケア会議の型（パターン）ごとの分析

平成 29～30 年度の地域課題検討ケア会議を分析すると概ね 5 パターンの類型に分けることが出来る。以下、パターンごとのニーズ・目標（課題）を示す。

① 事業所ネットワーク型パターン

ニーズ・目標（課題）・説明	会議パターン
地域のメンバー（民生委員・自治会等）や事業所同士で集まり、認知症や介護予防の活動を行うことにより、地域の信用力を高める。	事業所ネットワーク型
包括支援センターと地域（民生委員等）とで地域の支援ニーズを把握し、早期の支援体制を構築していくもの。	包括支援ニーズ把握型
地域の高齢者居場所や介護予防の拠点等を創設するために協議を行うもの。	居場所創設型
地域課題を協議し、認知症や介護予防等の課題を明確にし、解決を模索していくもの。	地域対話・啓発・協働活動型
障害の基幹相談支援センターと生活困窮の生活自立支援センターと連携して、複合的な課題を抱える家族支援を目的に、協議を行うもの。	多機関連携型

② 会議パターン別協議体数

圏域/会議パターン	事業所ネットワーク型	包括支援ニーズ把握型	居場所創設型	地域対話・啓発・協働活動型	多機関連携型	総計
協議体数	15	7	5	3	1	31

③ 分析・パターンごとの成果（実績）及び課題

別紙2のとおり

④ 地域課題検討ケア会議では解決できていない課題

会議パターン	圏域	残された課題
事業所ネットワーク型	西	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所によっては参加者が毎回違うところがあり、考え方の統一には至らなかった ・取組を具現化することはできなかった
	南	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災計画と事業所の避難計画の連動が不十分 ・地域役員後任の不在問題 ・参加事業所が偏っており、全体的なネットワーク構築には至っていない ・身近に集まる場所がない ・民生委員は熱心だが、住民の動きは少ない ・地域の問題が上がらない
	北	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物の手段がなく、事業所と検討しても改善できる方法が現段階では見つかっていない ・支えあいでも検討事項になると思われるが、北野町の寄り道バスも動線の効率化の声が上がっている ・集いの場への移動手段に問題があり、集いの場への移動手段があれば高齢者が介護サービスに頼らず介護予防に取り組むことが出来る
包括支援ニーズ把握型	東	<ul style="list-style-type: none"> ・移動手段の問題 ・買い物難民がいる ・水縄コースの福祉バスは、買い物場所に立ちよらない
	西	<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブの担い手不足。 ・老人会の解散など地域の集まりの機会なども減少している ・民生委員の次のなり手がいない
居場所創設型	中央	<ul style="list-style-type: none"> ・サロン活動の場がコミュニティセンターであり、コミュニティセンターから離れている住民は足が向きにくい。
地域対話・啓発・協働活動型	中央	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の未加入 ・地域の行事に同じ顔ぶれしか集まらない ・認知症の人でも安心して買い物が出来るようになるといい

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症で徘徊されていても、本人が答えることができない場合の対応 ・ 閉じこもっている人を誘い出すのも難しい ・ 一人暮らしで、マンション住まいだと鍵の管理が不安 <p>昔のように、身近なところに交番や駐在所があると安心につながる</p>
南	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の担い手不足 ・ 市営住宅空き部屋 ・ 若年者の居住促進 ・ 高齢者と若者をうまくマッチングできないか ・ 認知症サポーターを中心にサルコペニアやフレイルなどの健康チェックができないか

4. 委員の皆様には議論をお願いしたい視点

○2 ページの厚生労働省通知による「全市的地域ケア会議」の機能、主催者、構成員等を参考に、個別支援地域ケア会議及び地域課題検討ケア会議の課題や成果、残された課題等から、令和3年度以降の第8期高齢者福祉計画に位置づけるための提言の基礎になるご意見をいただきたい。

5. 今後のスケジュールについて

①令和2年度第1回

- ・ 令和元年度の件数・状況の説明（個別課題及び地域課題検討ケア会議の説明）

②令和2年度第2回

- ・ 意見のとりまとめ、地域ケア会議提言案の提示